



# あすもりサポーター通信



1月30日に、全道11地区の会場で、「第6回 北海道の森づくり交流会」を開催しました。



あすもり基金では毎年1月に、森づくりから活用までを考える場として「北海道の森づくり交流会」を開催しています。今年度は全道11地区をTV会議で結び、「特別講演・対談・地区発表・助成金贈呈式」を札幌会場から中継しました。中継以外の時間は各地区で今年の企画を話し合ったり、地元の森づくり・森づかい団体と交流を行いました。木育を取り巻く地域の課題が話し合われたり、森とのふれあい企画のアイデアが生まれたり、全道から「春からの活動が楽しみです」との感想が寄せられています。

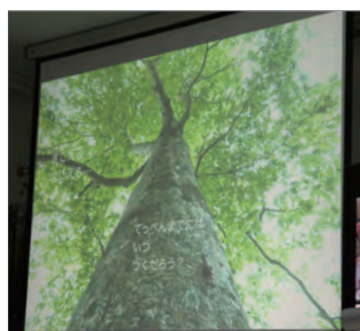
## 特別講演 「森でつながる・森でつなげる ～写真絵本作家が考える自然・ひと・いのち～」

写真絵本作家 小寺 卓矢さん



今年度は、森を題材にした写真絵本の作者で、即興絵本づくりワークショップでも知られる小寺卓矢さんに講演していただきました。講演は、小学校教材になっている代表作の絵本『森のいのち』の朗読から始まりました。美しい森の映像がスクリーンに映し出されると会場は静まりかえり、小寺さんのゆったりと落ち着いた声にみなさんが聞き入っていました。参加者からは「ふだんの森歩きでは気づかなかった足元のいのちに気付かされた」「小さいいのちが森の成長につながり、私たちが豊かにしてくれることを実感した」など、新しい気付きをもらったという感想をたくさんいただきました。

続いて行われたのは「即興の写真絵本づくり」です。札幌会場にいる小寺さんが他会場に呼びかけて、森の写真にコメントをつけてもらい、一冊の絵本に仕上げました。初の試みでしたが、顔を出したばかりの木の芽には「こんにちは!」、見上げるような樹木には「てっぺんまでには、いつつくのだろう」など、人それぞれに感じ方や表現が違って興味深い試みでした。複数の地区で「今年度は、森の中で即興写真絵本づくりをしたい」との声が寄せられています。



## 対談 「市民が考え、楽しむ森づくり」

NPO法人もりねっと北海道・山本 牧さん × 小寺 卓矢さん

続いて、森づくりワークショップの講師を務める山本牧さん（NPO法人もりねっと北海道代表）と小寺さんの対談を行いました。小寺さんは、2015年度の「森づくりワークショップ」に1年を通して参加していただきました。「写真撮影の時はちがう新たな視点で森を見るようになりました」と小寺さん。お二人が森と関わるようになったきっかけ、ワークショップで行った未開地探索やチームに分かれて森をデザインする植樹計画づくりの話など、楽しい対談でした。参加者からは「人が関わる、人がつくる森の楽しみが伝わってきました」「森に行きたくなった!」「森づくりがいっそう楽しくなりそう」などの声が寄せられました。

対談の終了後は、北見地区と室蘭地区から活動報告をしていただき、最後に、2016年度の助成団体のみなさんに柿澤運営委員長から助成金目録を贈呈して、札幌会場からのTV中継を終了しました（あすもりサポーター代表・井上久子）。



山本さん(左)と小寺さん(右)



2016助成団体のみなさん(札幌会場)





## 地区別交流会～札幌会場



札幌会場の地区別交流会は、昨年好評だった参加団体による「1分間スピーチ」から始まりました。コープさっぽろ4地区を含む22団体が発表し、参加者と4名の審査委員が採点して、5つの賞を選びました。採点とはいつでも、交流のきっかけづくりとして考えた遊びどころ満載のプログラムです。

最高得点の「おもしろかったで賞」を獲得したのは、コープさっぽろ札幌東地区でした。参加者からは『発表者の“思い”がストレートに出て良かった』との感想が寄せられました。札幌東地区エリア委員長の吉田さんは『短時間でまとめるドキドキ感と、時間切れを知らせるカスタネットの音が印象に残りました』と話しています。

その他の賞は次の通りです。「話しきれたで賞」：北海道林業技士会、「元気があったで賞」：当別森林ボランティアシラカンバ、「もっと聞きたかったで賞」：間伐ボランティア・札幌ウディーズ、「参加者が選んだで賞」：河川愛護団体リバーネット21ながめま。

スピーチの後は20分間の交流タイムを設けました。壁一面に設けた各団体の展示ブースで話し込んだり、活動地が近い団体同士が名刺交換する姿をあちこちで見かけました。団体が製作した木工品や書籍、活動応援グッズを購入した方もいました。回を重ねるごとに、団体のネットワークが広がっていることを実感しています。



## 森づくりワークショップ報告 / 道民の森 Fの森(Fゾーン)

### 第4回森づくりワークショップ(11/14、参加者26名)



2015年度4回目の森づくりワークショップ(以下、森WS)では前回決めた植樹エリアに植える樹種を選定しました。2チームに分かれて、「どんな森にしたいか」を思い描きながら、「山を望む景色が隠れないよう、背の低い木にしよう」「子どもが実を摘めるゾーンをつくろう」などと話し合いながら決めていきました。どれも捨てがたい思いの詰まった意見ばかりで、多彩な樹種のオンパレードでした。その中から、「Fの森周辺に自生する樹木を植える」というスタンスに沿って、最終的な樹種を決めました。



2016年度の植樹計画案



次に、林業試験場の棚橋さんに、夏以降に実施した生育調査の分析を説明してもらいました。メンバー全員で苗木の樹高を測ったり、ウサギやネズミが食べた痕を数えたりした作業が、成長率や食害率の数字やグラフとして見える化され、調査の意義を実感した方が多かったようです。

最後に、現地で採取したキハダ、イタヤカエデなど4種類の種子を観察。来年に向けて種まきを行いました。現在はみなさんの家の庭やベランダで冬を越しています。種子から芽が出て育つ過程を見ていただくために実施しましたが、発芽するかどうかは春までわかりません。みなさんからの吉報をお待ちしています。

今年も5月から森WSが始まります。森は行くたびに毎回違う姿を見せてくれます。

苗木はどのくらい育ったか、どんな生き物がいるのか。森に向かう時のあのワクワク感を一緒に体験しませんか。参加申込は4月15日(金)まで基金事務局で受け付けています。(森WS運営/雪印種苗(株)木村浩二)